



石川県公立高校入試【社会・歴史】完全攻略プリント②

～15 年間（2012～2026 年）の出題データから導く「資料比較・統合記述の 3 段階照合
トレーニング」～

【本教材のガイダンスと到達目標】

対象者

石川県公立高校入試を受験する中学 3 年生（および指導者・保護者）

特に向いている生徒

- 単一の歴史用語は覚えているが、2 つの資料（統計、史料文、声明文、模式図など）を見比べて説明する問題になると何を書けばよいか分からなくなる生徒
- 資料に書かれている数値や文言をそのまま書き写してしまい、減点されてしまう生徒
- 「以前と以後の対比」「原因と結果の結びつけ」など、資料間の関係を論理的な一文にまとめるのが苦手な生徒
- 石川県公立高校入試の大問 5（歴史）において、複数資料記述で安定して得点したい生徒

このプリントでできるようになること

- **条件・設問要求の確認（Step 1）**：設問の問い方（理由、背景、制度変化など）と、指定語句・条件（「～に触れて」「～を明らかにして」）に線を引き、答案に必ず含めるべき制約を漏れなく抽出できる。
- **歴史事実・因果関係の整理（Step 2）**：資料の行間を埋めるために不可欠な歴史事実や制度の仕組みを想起し、余白にメモできる。
- **根拠と正答条件の照合（Step 3）**：資料 A の情報、資料 B の情報、および必要な歴史知識を照合し、設問の要求（対比・因果・構造の分析）に合致しているかを確認できる。
- **答案の作成・記号の決定（Step 4）**：整理した要素を論理構文に当てはめ、文末表現を整えて指定条件を満たした一文を完成させられる。

推奨する使い方

1. **第 1 章・第 2 章の通読**：石川県入試における複数資料記述の出題構造と、「4 ステップ確認手順」および資料処理を深める「3 段階照合手順」を把握する。
2. **第 3 章 第 1 部の演習（問 1～8）**：ステップ分解枠を活用して演習を行う。ヒントが徐々に減る設計（手順例示 → 半誘導 → 自力整理）により、自力で資料を突き合わせて答案を組み立てる手順を定着させる（目安時間：35 分）。
3. **第 3 章 第 2 部の演習（問 9～12）**：パターン名やステップ枠のない実戦形式で、自力で手順を再現して記述答案を作成する（目安時間：25 分）。
4. **第 4 章による自己採点**：「本教材の自己採点目安」を参照し、必須要素が盛り込まれているかを○・△・×の 3 段階で客観的に判定する。
5. **第 5 章・第 6 章の活用**：試験直前の手順確認と、実際の過去問演習への接続を行う。

【冒頭要約：15 年分析が導いた結論】

複数資料記述は「資料の丸写し」では得点できない。資料 A と資料 B から必要な情報を取り出し、両者の関係を整理する。資料の情報だけでは説明が完成しない場合は、必要な歴史知識を補って答案を組み立てる処理が求められている。

2012～2026 年度の 15 年間（大問 5・全 98 設問）の分析から確認できる事実は以下の通りである。

- **資料比較記述の継続的な出題：**複数資料を関連づけて説明する記述問題は、15 年間で 9 年度（全 98 設問中 9 問・年度ベースで 60.0%）確認された。直近 5 年間（2022～2026 年度）でも 3 年度（2022 年、2025 年、2026 年）で出題されており、大問後半の重要形式として定着している。
- **資料組み合わせの多様性：**統計表×声明文（2026 年）、グラフ×模式図（2016 年）、表×共同宣言文（2014 年）、統計表×日記（2017 年）など、組み合わせの形式は年度によって異なる。
- **3 つの論理類型：**歴史的な理由・背景や制度変化を説明する 8 設問は、「対比型（前後変化や政策の対照）」「因果結合理型（背景と結果の接続）」「構造解説型（制度・経済・社会構造の分析）」の 3 類型に整理できる。

★ 資料をただ眺めるな。必ず「資料 A から拾う要素」「資料 B から拾う要素」「両者の関係を説明するために必要な知識・根拠」の 3 パーツを余白にメモしてから書き始めよ。

第 1 章：15 年間の出題データに見る「複数資料記述」の構造

石川県公立高校入試の大問 5（近現代史）において出題された資料比較記述の代表例を精査し、どのような処理が要求されているかを確認する。

実例(1)：統計表 × 声明文要旨（因果結合理型：2026 年度 問 5）

- **資料構成：**石油の国別輸入割合を示す統計表（資料 2：アメリカが約 8 割）× 米国高官による声明の要旨（資料 3：東南アジアへの武力進出に対する警告）。
- **設問要求：**1941 年に日本政府が代替燃料（木炭など）を使用する自動車にのみ営業許可を出した理由を、資料 2 の国名（アメリカ）を明らかにし、2 つの資料を関連づけて説明する。
- **答案作成の論理：**
 1. 資料 2 から、日本が石油輸入の大部分を「アメリカ」に依存していた事実を抽出。
 2. 資料 3 から、アメリカが日本の軍事行動を強く警戒していた事実を抽出。
 3. 歴史知識から、1941 年の決定的な出来事である「アメリカによる対日石油輸出の全面禁止（石油禁輸）」を想起。
 4. 「石油をアメリカに依存していたが、日本の進出に対してアメリカが石油輸出を禁止し、石油が不足したため」という一本の因果関係に統合する。
- **教訓：**資料の一方だけを抜き出しても、資料の文言を書き写すだけでも不十分である。2 つの資料の間にある「歴史的事実」を知識から補うことで、初めて設問の要求（なぜ代替燃料車に限ったのか）に答えることができる。